

「縣陵を支援する会」

会長 高33回 松林

知史



佐藤彦雄先生がフロントランナーとして我が母校に英語科を創設されたのは、四半世紀前。「明るく積極的な生徒」を輩出してきた英語科が、このシンギュラリティの時代にパワーアップして探究科に改編されました。探究科設置までの道のりを知るものとして、永原校長先生をはじめとした教職員とPTAの皆様が英断と労苦に深く感謝申し上げます。

この100年弱の間、松本県ヶ丘高校の卒業生がひたすら自分の責務や仕事に忠実に汗を流し、中信地区の経済や社会を担ってきた事実を再認識した上で、我が母校の卒業生と在校生は、「教育と地域の「分断」ではなく「融和と協業」による国際的な発展をビジョンにしていることに心が踊ります。同窓生が教職



山田崇さんの講演

員の方と協力して県下随一（または日本随一）の地域社会と連携した学びの環境を作り上げることに成功することで、伸びしろのある優秀な人材を中信地区に送り出し、中信地区の企業と経済が活性化と明るい将来を強固なものにする信じております。国際社会の中の長野県の経済や社会の牽引する人材を育てる母校であって欲しいと願っております。

中信地区の経済や社会の発展に直接に影響を持つ母校の後輩たちへのエールを見える形として組織化したものが、「縣陵の学びを支援する会」となります。当初は、永原校長先生からの依頼に応じて第33回卒の高木和久君をはじめとする学校評議員とその他の卒業生の有志により発足されました。

「県陵の今と将来のビジョンを知る」という知る支援から、社会との連携のための支援先や支援者を探すことまで色々な支援の形があります。支援の会では、直近では、学校の学びを支

援するというコンセプトのアウトリーチ、進路講義や国内研修先の選定アドバイス、そして、「ふるさと納税を利用した県陵への寄付行為」を推進しております。

特に、ふるさと納税は、長野県外納税者が長野県への納税を通じて通常の学校運営費と同じく母校へその全額が寄付されるものです。

東京同窓会を中心とする県外者がその中心となりますが、皆様のお声かけを宜しくお願ひします。

温故知新  
— 人材プロファイル —  
先の見えない将来を創造して楽しめる人材  
(大道を闊歩せよ)  
笑顔でやり抜く人材  
(弱音を吐くな)  
本質を極め美しい人材  
(質実剛健であれ)



信州大学附属病院見学プログラム

※左記のQRコードまたはURLからご登録と寄付をお願い申し上げます。

支援する会 QRコード

ふるさと納税 QRコード

夏の松本から 高27回 福嶋 良晶

「みすずかる信濃に 若木は競い森を深める 山脈(やま)渡る風に種子を拡げて」を大会テーマに本年8月7日から11日までの5日間、第42回全国高等学校総合文化祭が長野県で開催される。全国から各都道府県を代表する高校生が集結し、文化の祭典が繰り広げられる。

松本市では、まつもと市民芸術館において開会式を、松本城までの市内パレード、キッセイ文化ホールでの吹奏楽、松本市美術館での書道、松本大学での特別支援学校の取り組み発表がある。若い熱気で例年以上の熱い夏が訪れそうだ。

まつもと市民芸術館、松本市美術館は、同窓生に馴染みの深い松本駅から

あがたの森文化会館までの「あがたの森通り」、かつての「電車通り」にある。いずれの施設も昨年他界された元同窓会長・有賀正前市長が建設に尽力されたものであり、施設規模に加えて、様々な事業が毎年展開されていることから、文化薫る松本市を代表する施設となっている。

まつもと市民芸術館(旧松本市民会館跡地)は、2004年に開館。日本が誇る指揮者である小澤征爾氏が芸術監督を務め27回目を迎えるセイジ・オザワ松本フェスティバルのオペラ会場として、そして、今年6回目となる信州・松本大歌舞伎が行われる。折しも、6月12日から、中村七之助をはじめ松竹歌舞伎俳優が「渋谷コクーン歌舞伎」で上演する「切られの与三」と同じ舞台を松本ならではの魅力、演出を

加えて同18日まで公演される。

一方、松本市美術館(旧松本警察署跡地)は、2002年に開館。現在、松本市に生まれ、世界を舞台に活躍されている草間彌生氏の「ALL ABOUT MY LOVE 私の愛のすべて」特別展を7月22日まで開催している。

社会が複雑化、多様化する中で、北アルプスや美ヶ原の連山を眺め、自然とともに息づき個性を磨いてきた高校時代を振り返り、今夏、若者の集う松本の地で、新たな自分を発見してみたいは、いかがだろうか。



ふるさと通信